

## 1. 展覧会の概要に関する事項

### (1) 展覧会の名称

〇〇〇〇〇〇 ※日本語で記入

〇〇〇〇〇〇 ※英語で記入

### (2) 展覧会の趣旨及び内容

※展覧会の狙い・テーマ、企画の趣旨、おおまかな展示作品数(展覧会の規模や評価額の見当が推測できる内容)、主な作品の特徴・重要性、文化的・学術的価値、先導性、斬新性、展示コンセプトなどを記入

### (3) 企画経緯・所有者との交渉状況

※どのような成り立ちで企画され、作品の選定が行われたか、現在の交渉状況とともに具体的に記入  
※各施設の学芸員のかかわりを踏まえて記入

### (4) 安全配慮事項

#### ●クーリエの随伴について

※ここでは、クーリエの随伴について、大まかな概要を記入  
(なお、別に詳細の記入箇所あり)

#### ●コンディション・チェックの実施について

※ここでは、コンディション・チェックの実施について、大まかな概要を記入  
(なお、別に詳細の記入箇所あり)

#### ●輸送時の危険分散(輸送の分散、輸送時の警備など)

※ここでは、輸送時の危険分散について、大まかな概要を記入  
(なお、別に詳細の記入箇所あり)  
※約定評価額総額に応じて輸送を分散、輸送時の警備の有無を記入

#### ●今回実施する特別の安全配慮について

※通常の展覧会と違い、どのような特別の安全配慮をするかを記入

(5) 補償制度の活用の必要性

① 補償制度を活用する必要性

※政府補償制度を活用することによって、生じる変化を具体的に記入(借受ける条件や企画内容など)

② 補償制度を活用できない場合に展覧会の開催上生じる支障

※政府補償制度が適用されない場合に生じる変化を記入(展示内容、会場数、開催日数など)

## (6) 補償制度の活用による国民的利益

1. 美術品補償制度の適用を受けなかった場合の通常の保険料(見込み)	
※政府補償の対象となる美術品にかかる、通常の保険料を記入	4,500 万円
2. 美術品の補償制度の適用を受けた場合の保険料(見込み)	
※政府補償の対象となる美術品にかかる、50億円の損害までの保険料を記入	2,500 万円
3. 上記1から2を差し引いた額(美術品補償制度による効果:影響額)	
	2,000 万円
4. 上記の保険料を試算した保険会社	
	〇〇〇保険
5. 軽減された保険料の使途、効果等(上記3に相当する額を記載)	
・入場料の無料化・軽減等	
※箇条書きで使途内容や積算内訳を記入	
※高校生の入場料無料化	
・無料化(600円→0円)された入場料:600円×5,000人=300万円	
※シニアの入場料低減	
・低減(1,500円→800円)された入場料:700円×10,000人=700万円	
	1,000 万円
・展示作品の質・量の充実	
※箇条書きで使途内容や積算内訳を記入	
※新たに追加的に借受けることができた作品に付帯するコストを記入	
※当該作品にかかる借用料+輸送費+保険料を割合に基づいて導出	
	500 万円
・教育普及活動の充実	
※箇条書きで使途内容や積算内訳を記入	
※政府補償があるからこそ実施する活動を記入	
※通常の展覧会でも実施していることは記入しない	
	500 万円
合 計	2,000 万円

## (7) 開催期間

	開催施設名	開催予定期間	期間日数		入場見込数		
			休館日を含んだ期間	休館日を除いた期間	平日(人@日)	土日祝日(人@日)	計
1	〇〇美術館	2014年11月3日 ~ 2014年12月24日	51 日	45 日	3,000 人	5,000 人	17 万人
2	〇〇博物館	2015年1月4日 ~ 2015年2月20日	47 日	41 日	2,000 人	3,000 人	10 万人
3	〇〇美術館	2015年3月1日 ~ 2015年4月21日	51 日	44 日	1,500 人	2,000 人	7 万人
合計		2014年11月3日 ~ 2015年4月21日	169 日	130 日			34 万人

	開催施設の名称	開催期間
日本開催前	〇〇美術館(アメリカ・シカゴ)	年 月 日 ~ 年 月 日
日本開催後	〇〇博物館(中国・北京)	年 月 日 ~ 年 月 日

## (8) 入場料の状況

想定する入場者の区分とその割合、及びその考え方

※全入場者に占める高校生の割合、シニア(65歳以上)の割合を記入

過去に実施した〇〇展(〇〇年開催)をもとに推計し、性別では男性〇%、女性〇%。年齢別では、シニア(65歳以上)〇%、一般〇%、大学生〇%、高校生〇%、中学生〇%、小学生〇%と予測している。

開催施設名	区分	政府補償制度		設定の考え方・その他
		あり	← なし	
〇〇美術館	一般	1,300 円	← 1,500 円	※収支の観点だけでなく、教育的・文化的意義についても記入 ※無料観覧日の設定、減免措置等の取組があれば、記入 ※本制度を利用しても、入場料を軽減できない場合は、その理由を詳細に記入
	大学生	900 円	← 1,200 円	
	高校生	0 円	← 900 円	
	中学生	0 円	← 0 円	
	小学生	0 円	← 0 円	
開催施設名	区分	あり	← なし	設定の考え方・その他
	一般	円	← 円	
	大学生	円	← 円	
	高校生	円	← 円	
	中学生	円	← 円	
	小学生	円	← 円	
開催施設名	区分	あり	← なし	設定の考え方・その他
	一般	円	← 円	
	大学生	円	← 円	
	高校生	円	← 円	
	中学生	円	← 円	
	小学生	円	← 円	

## (9) 収支予算書

主催者名 ○○美術館

※原則として、開催施設ごとに提出。また共催者に特に秘すべき事項がある場合には、その旨を記述した上で、申請代表者を通さず、直接文化庁に提出。

## ●収入

区分	内 訳	予算額
展覧会収入	【入場料】 大人1,000円	万円
	【図録売上】 大人1,000円×5,000冊	
	【関連グッズ売上】	
	【その他】	
その他の収入	【協賛金・寄附金】	
	【補助金・助成金】 ※開催分担金を含む	
	【その他】 ※自治体・本社等からの赤字補てん分等を記入	
収入総額		

## ●支出

区分	内 訳	予算額
企画準備等基本経費	【借用料】	万円
	【謝金】 ※著しく高額の場合は、その理由を別紙に記入	
	【保険料】 ※制度適用された場合の金額を記入	
	【輸送費】	
	【クーリエ等招聘費】	
	【図録制作費】	
	【その他印刷費】	
	【企画構成費】	
	【その他(交渉費・職員旅費等)】	
	設営・運営等会場関係経費	【広告・宣伝費】
【展示施工費】		
【会場事務費】		
【監視・警備費】		
【その他】		
支出総額		

(10) その他

● 展覧会カタログ

・概要（主な構成、価格、ページ数等）  
※作成するカタログの特徴を具体的に記入

・執筆者、担当テーマ  
※企画責任者など日本側によるカタログ・エッセーの執筆の有無について記入

● 講演会・シンポジウム等

※通常の展覧会における講演会等との相違を踏まえ、どのような工夫がなされるか記入

● 教育普及活動

※各開催施設ごとに、施設独自の取組の方針を記入

● 広報スケジュール

※展覧会の開催情報(入場料等)の告知時期を含めて記入

## (資料)チラシ

- プレス向け配布資料など、展覧会のコンセプトが簡単にわかる  
広報資料等を提出する